

インターチェンジ周辺の発展と交通との関わり

～出雲インターチェンジができたことによりどのような効果があったのか～

ふるさとへの
変遷

仮説

①交通の便が良くなり観光客増加が見込まれる。
②インターチェンジができることで交通量や人の流れも増加するので出入口から北へ続く道路(インター線)に沿って多数の商業施設や住宅などの建物も増えると推測される。

神西の説明

西に神西湖を控え湖陵長浜、神戸川地区に接する人口が約500人の地域。神西湖は汽水湖で豊富な魚類や鳥類が生息しているが、近年、水質の悪化が懸念され水質浄化の活動がされている。南には田や畑が広がり、電車基地や紡績工場、自動車部品工場、ホームセンターなど施設がある。2009年11月には出雲インターチェンジができ、出雲大社等へ行き来する自動車の交通量が飛躍的に増えた。(神西小学校HPより一部引用)

観光バス・トラック・自家用車では県外ナンバーが目立ち、バイクでのツーリング客も多かった。インター線沿いには新しい住宅は見られなかった。

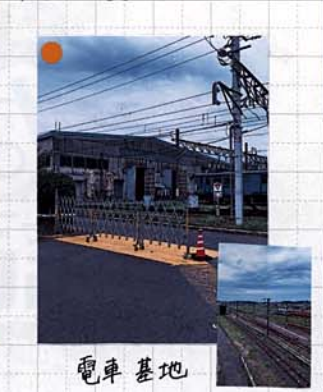
発行年月日
令和4年 8月15日
発行者
武田 麻鈴
出典
①～④ 国土地理院より
⑤ https://corp.w-nexco.co.jp
⑥ https://www.zenken.com/
⑦ 出雲市のHP
⑧ https://map.maff.go.jp/



1974年～1978年 地域の様子



2021年 地域の様子



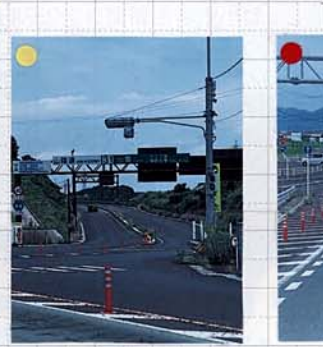
電車基地



1974年～1978年 インターチェンジ建設前



2009年 インターチェンジ建設後



出入口



インター線

効果①
山陰圏のアクセスが向上し旅行時間が短縮される。
松江市から出雲市(出雲大社)への旅行時間が10分短縮。
→により近畿地方、中国地方南部から山陰へのアクセス向上。
災害時において国道9号の代替路として活用する。

効果②
救急医療体制の強化が期待される。
救急時にインターチェンジの近くに3次医療機関があるため搬送時間が短縮される。
※3次医療機関
↓県立中央病院
島根大学付属病院
松江赤十字病院
搬送ルートの選択が可能となり、医療環境が向上。
島根センター(松江)から浜田、益田へ手術等で病院に血液が無くした場合に血液を緊急搬送する時間が短縮。

効果③
周辺観光、企業誘致の促進
地域産業の発展、生活圏の広域化、文化の交流など、更なる地域の活性化に寄与することが期待される。
出雲市や斐川町の農林水産物の特産品(シシミ、テラウエア、アブコギリ、斐川たまねぎ)等の京阪神や全国に出荷を支援し、鮮度の保持や販路の拡大に寄与することが期待される。
山陰道沿線のアクセスが向上することで、工業団地等の企業誘致の促進が期待される。

山陰自動車道(斐川～出雲)近隣地域の主な農林水産物の特産品

シシミ、テラウエア、かあちゃんブロッコリー、斐川たまねぎ

京阪神及び全国へ出荷

編集後記
今回の調査を通して身近なところでの人の役割を果たしているイララとしての道路や法律が決まっていた地域であることがわかってきました。

仮説の実証
仮説①は正しかった。
仮説②は住宅や商業施設の目立った増加は見られず疑問に思い調べてみた。調査するとインターチェンジ沿いは農業振興地域で農地転用の許可が得られにくく、えられた。

近年やや減少傾向にあるのは、観光地そのものの魅力が感じられなくなり、ハイパーが減ったためかもしれない。

